

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2023.5
No. 768



※ P5820 参照



※ P5813 参照



※ P5809 参照



※ P5810 参照

目次

[大学の動き]

- 理事が発令される 5799
- 副学長が発令される 5799
- 副理事が発令される 5799
- 理事補が発令される 5800
- 部局長の交替等 5800
- 第9回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催 5804
- 名誉教授称号授与式を挙行 5805
- 退職者功労表彰式を挙行 5807
- 京都大学職員研修・成長支援体系を刷新、愛称を「Kyoto U grow upプログラム-Runway-」に決定 5807
- 第15回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を挙行 5809
- 第1回京都大学北米 On-site Laboratory 合同シンポジウム：Transformative Innovations in Medical and Life Sciences を開催 5810
- 令和4年度「総長賞表彰式」を挙行 5811
- 令和4年度卒業式を挙行 5813
- 令和4年度大学院学位授与式を挙行 5814
- 令和5年度学部入学式を挙行 5819
- 令和5年度大学院入学式を挙行 5820
- 「京都大学ポスターセッション 2022」を開催 5823
- プログラム「テクノロジーが美となるとき」の展示会を開催 5824

[部局の動き]

- 京都大学研究資源アーカイブが「福井謙一研究資料, 1936-1988 (主年代 1940-1982)」を公開 5826
- 2022年度冬季アジア未来リーダー育成奨学金プログラム (AFLSP) 成果報告会を開催 5827
- 左京消防署との合同消防訓練および令和4年度京都大学医学部附属病院災害対策訓練を実施 5828
- 第18回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学新潟講演会を開催 5829
- 理学の楽しさを伝える新しいコンセプトの情報誌「京大理で学ぼう。」を発行 5830
- フィールド科学教育研究センター芦生研究林とKDDI株式会社が、生物多様性の保全に向けた包括連携協定を締結 5831
- 第8回森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」を開催 5832

[寸言]

- 学びと仕事を限定せず、幅広い努力を 片岡 方和 5835

[随想]

- 持続可能性について考える 名誉教授 塩路 昌宏 5836

[洛書]

- 最終講義のタイトルを考える 栗野 皓光 5837

[訃報]

- 嶋本 譲 名誉教授 5838



京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

大学の
動き

理事が発令される

4月1日付けで新たに理事が任命されました。任期は令和6年9月30日まで。



財務、施設、環境担当

江上 雅彦（新任）



教育、学生、入試担当

國府 寛司（新任）



研究倫理、研究公正、
研究規範担当

榎木 哲夫（新任）

[目次に戻る ↗](#)

副学長が発令される

4月1日付けで副学長が任命されました。任期は以下のとおり。



学術研究支援担当

石川 冬木（再任）

【令和6年9月30日まで】



学生支援担当

高倉 喜信（再任）

【令和6年9月30日まで】



国際高等教育院担当

宮川 恒（再任）

【令和6年3月31日まで】

[目次に戻る ↗](#)

副理事が発令される

4月1日付けで新たに副理事が任命されました。任期は令和6年3月31日まで。



桂キャンパス担当

立川 康人（新任）



宇治・遠隔地キャンパス担当

中北 英一（再任）



総務・調整担当

佐藤 昭博（再任）

[目次に戻る ↗](#)

理事補が発令される

補佐する理事	氏名	任期	
男女共同参画担当理事	木下彩栄	令和5年4月1日～令和6年9月30日	(新任)
労務担当理事	小畑史子	令和5年4月1日～令和6年6月30日	(新任)
研究担当理事 評価担当理事	若宮淳志	令和5年5月1日～令和6年9月30日	(新任)

[目次に戻る ↗](#)

部局長の交替等

【新任】

教育学研究科長・教育学部長

齊藤 智 教育学系(大学院教育学研究科)教授が、楠見 孝 教育学研究科長・教育学部長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。



法学研究科長・法学部長

唐渡晃弘 法学系(大学院法学研究科)教授が、塩見 淳 法学研究科長・法学部長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。



人文科学研究科長

岩城卓二 人文学系(人文科学研究所)教授が、稲葉 穰 人文科学研究科長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。



人と社会の未来研究院長

内田由紀子 全学教員部(人と社会の未来研究院)教授が、宇佐美文理 人と社会の未来研究院長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和6年9月30日まで。



大学の
動き**情報学研究科長**

五十嵐 淳 情報学系（大学院情報学研究科）教授が、河原達也 情報学研究科長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

**生命科学研究所長**

井垣達史 生命科学系（大学院生命科学研究所）教授が、福澤秀哉 生命科学研究所長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

**白眉センター長**

高倉喜信 薬学系（大学院薬学研究科）教授が、赤松明彦 白眉センター長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

※職名は選出時のものです。

**複合原子力科学研究所長**

黒崎 健 複合原子力科学系（複合原子力科学研究所附属安全原子力システム研究センター）教授が、中島 健 複合原子力科学研究所長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

**総合生存学館長**

村上 章 理事が、積山 薫 総合生存学館長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

※職名は選出時のものです。

**教育支援機構長**

平島崇男 理事が、江上雅彦 教育支援機構長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和6年9月30日まで。

※職名は選出時のものです。



大学の
動き**医学部附属病院長**

高折晃史 臨床医学系(大学院医学研究科)教授が、宮本 享 医学部附属病院長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和8年3月31日まで。

**理学研究科長・理学部長**

田中耕一郎 物理・宇宙物理学系(大学院理学研究科)教授が、國府寛司 理学研究科長・理学部長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

**工学研究科長・工学部長**

立川康人 地球工学系(大学院工学研究科)教授が、榎木哲夫 工学研究科長・工学部長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

**福井謙一記念研究センター長**

佐藤 徹 工業化学系(福井謙一記念研究センター)教授が、佐藤啓文 福井謙一記念研究センター長の後任として選出されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

【再任】**経済学研究科長・経済学部長**

依田高典 経済学系(大学院経済学研究科)教授が、経済学研究科長・経済学部長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

総合博物館長

永益英敏 全学教員部(総合博物館)教授が、総合博物館長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

学生総合支援機構長

高倉喜信 薬学系(大学院薬学研究科)教授が、学生総合支援機構長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年9月30日まで。

※職名は選出時のものです。

大学の
動き**エネルギー科学研究科長**

平藤哲司 エネルギー科学系（大学院エネルギー科学研究科）教授が、エネルギー科学研究科長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

国際高等教育院長

宮川 恒 農芸化学系（大学院農学研究科）教授が、国際高等教育院長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

※職名は選出時のものです。

高等研究院長

森 重文 高等研究院特別教授が、高等研究院長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

基礎物理学研究所長

青木慎也 基礎物理学系（基礎物理学研究所）教授が、基礎物理学研究所長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

生態学研究センター長

中野伸一 生態フィールド学系（生態学研究センター）教授が、生態学研究センター長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

野生動物研究センター長

伊谷原一 生態フィールド学系（野生動物研究センター）教授が、野生動物研究センター長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。

※職名は選出時のものです。

フィールド科学教育研究センター長

朝倉 彰 生態フィールド学系（フィールド科学教育研究センター）教授が、フィールド科学教育研究センター長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

エネルギー理工学研究所長

森井 孝 エネルギー理工学系（エネルギー理工学研究所）教授が、エネルギー理工学研究所長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

防災研究所長

中北英一 防災学系（防災研究所）教授が、防災研究所長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

大学の
動き

学術研究展開センター長

石川冬木 生命科学系（大学院生命科学研究科）教授が、学術研究展開センター長に再任されました。任期は令和5年4月1日から令和8年3月31日まで。

※職名は選出時のものです。

[目次に戻る](#)

第9回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催

第9回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを、2月12日（日）に丸ビルホールにて開催しました。本シンポジウムは2014年から毎年開催しているもので、第6回開催以来の対面開催となりましたが、一般市民、高校生、研究者など合わせて約200名の参加がありました。



平岡教授



望月教授



小谷教授



福水教授



清水教授



パネルディスカッションの様子



記念撮影

大学の
動き

今回は、「数理が見る世界」を統一テーマとして、平岡裕章 高等研究院教授を中心に、望月拓郎 数理解析研究所教授、小谷元子 東北大学理事・副学長の3名が講演を行いました。講演では、数学の基礎を成す理論からビッグデータや材料開発への応用まで、数学の意義が幅広く紹介されました。

講演後には、平岡教授をモデレーターとして、福水健次 統計数理研究所教授、清水扇丈 人間・環境学研究科教授と講演者によるパネルディスカッションが行われ、数理が日常生活にどのように関わっているのかを考えました。研究スタイルや数学の研究者となったきっかけにも話題は及び、難しいイメージがある数学やその研究の世界を身近に感じる機会となりました。

参加者からは、「物理系や情報系に興味があったので、数学はそれらを可視化するための共通言語だという話が特に興味深かった」、「実社会や他分野の研究に活用できる内容を講演を通じて知ることができました」といった感想が寄せられ、盛況のうちに終了しました。

(渉外部(渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

名誉教授称号授与式を挙行

4月6日(木)午後4時から、百周年時計台記念館において、理事、監事、副理事、副学長の出席のもとに名誉教授称号授与式を挙行しました。

総長より称号を授与された方は、次の85名です。



氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
MATTHEWS, John Philip	国際高等教育院	加藤 眞	人間・環境学研究科
一本 潔	理学研究科	河合 潤	工学研究科
三村 衛	工学研究科	平石 哲也	防災研究所
梅澤 俊明	生存圏研究所	小杉 眞司	医学研究科
村中 孝史	法学研究科	高田 穰	生命科学研究科
高野 靖	工学研究科	中部 主敬	工学研究科
原 正一郎	東南アジア地域研究研究所	曾田 貞滋	理学研究科
秋吉 一成	工学研究科	宮本 享	医学部附属病院
古市 剛史	野生動物研究センター	神野 郁夫	工学研究科

大学の
動き

氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
白井 康之	エネルギー科学研究科	杉本 均	教育学研究科
岡村 秀典	人文科学研究所	落合 恵美子	文学研究科
宮川 恒	農学研究科	南 直治郎	農学研究科
高倉 喜信	薬学研究科	川上 則雄	理学研究科
和田 修己	工学研究科	水野 一晴	文学研究科
阪上 雅昭	人間・環境学研究科	玉田 芳史	アジア・アフリカ地域研究研究科
藤井 義久	農学研究科	清水 芳久	工学研究科
大村 善治	生存圏研究所	吉村 一良	理学研究科
松野 文俊	工学研究科	飯尾 能久	防災研究所
雪江 明彦	理学研究科	倉田 博基	化学研究所
中畑 正志	文学研究科	土井 元章	農学研究科
竹沢 泰子	人文科学研究所	三ヶ田 均	工学研究科
太田 快人	情報学研究科	藤田 正治	防災研究所
積山 薫	総合生存学館	藤田 耕司	人間・環境学研究科
田村 恵子	医学研究科	杉田 昌彦	医生物学研究所
小方 登	人間・環境学研究科	金子 周司	薬学研究科
酒井 敏	人間・環境学研究科	石川 冬木	生命科学研究所
榎木 哲夫	工学研究科	吉川 正俊	情報学研究科
竹脇 出	工学研究科	福澤 秀哉	生命科学研究所
大塚 浩二	工学研究科	高野 裕久	地球環境学堂
清野 純史	工学研究科	北山 兼弘	農学研究科
中島 健	複合原子力科学研究所	山本 克己	法学研究科
岡村 忠生	法学研究科	洲崎 博史	法学研究科
河合 俊雄	人と社会の未来研究院	永持 仁	情報学研究科
増田 眞	文学研究科	小山田 耕二	学術情報メディアセンター
戸井 雅和	医学研究科	澤田 純男	防災研究所
伊谷 原一	野生動物研究センター	北村 雅史	法学研究科
石原 慶一	エネルギー科学研究科	足立 壯一	医学研究科
別所 和久	医学研究科	森脇 淳	理学研究科
古賀 章彦	ヒト行動進化研究センター	服部 高宏	法学研究科
玉木 敬二	医学研究科	木村 亮	工学研究科
十一 元三	医学研究科	岡 真理	人間・環境学研究科
YOUSSEFIAN, Shohabeddin	医学研究科	林 康裕	工学研究科
嶺重 慎	理学研究科		

(人事部(人事企画課))

[目次に戻る ↗](#)

退職者功労表彰式を挙行

退職者功労表彰式を、3月31日（金）に本部棟5階大会議室において挙行し、湊 長博 総長、被表彰者15名が出席しました。

退職者功労表彰式は、退職時において勤続年数が30年以上の教職員および有期雇用教職員に対し、その永年にわたる功労を讃えるため創設したもので、2022年度末の被表彰者は27名でした。

表彰式では出席した被表彰者の氏名を紹介した後、総長が代表者に表彰状を授与し、祝辞を述べました。祝辞では永年本学の発展のために一人ひとりが尽力してきたことに対し、謝意が表されました。

祝辞の後には各々交流を深め、和やかな雰囲気の中、式は終了しました。



表彰状授与



祝辞を述べる湊総長



集合写真

(人事部(労務課))

[目次に戻る ↗](#)

京都大学職員研修・成長支援体系を刷新、愛称を「Kyoto U grow up プログラム -Runway-」に決定

令和5年度より京都大学職員研修・成長支援体系を刷新しました。新しい職員研修・成長支援体系では、受講対象者の見直しなどにより、自身が学びたいタイミングで自由に研修を選択し、スキルを磨くことができるようにしたほか、新規にOJTトレーナー研修や管理職級向けの

大学の
動き

e-Learningを導入するなど、職員が自身の「なりたい姿」から研修・成長支援を選択できるようにし、職員一人ひとりのキャリア形成を支援する体制を強化しました。

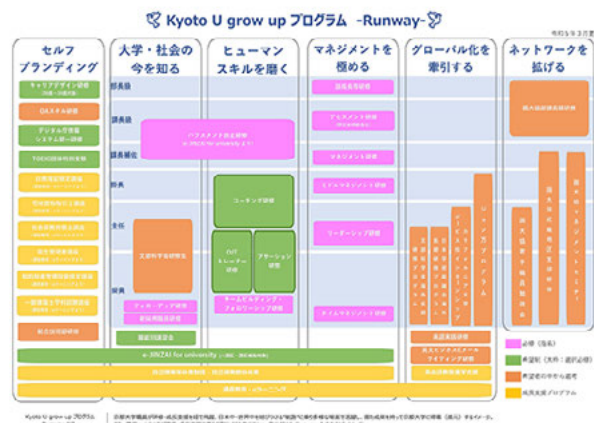
また、このような内容面の刷新と同時に、刷新した職員研修・成長支援体系を学内外に発信するため、職員研修・成長支援のイメージ図および体系図を新規に制作しました。イメージ図および体系図については、幹部職員セミナーおよびキャリアデザインセミナーを受講した職員を対象に愛称の公募を行ったところ、約50件の応募が寄せられ、その中から「KU Grow up!プログラム」(南西地区共通事務部総務課・池田 恵 課長補佐)および「KU Runway」(桂地区(工学研究科)総務課・馬場景子 掛員)を採用し、「Kyoto U grow up プログラム -Runway-」を愛称とすることに決定しました。愛称が採用されたお二方には、野崎治子 理事(職員研修担当)より表彰が行われ、池田課長補佐からは、「自分のアイデアが研修体系の愛称として形となり残っていくことがとても嬉しいです」、馬場掛員からは、「私自身、様々な研修に参加してきた中で、自分のアイデアを少しでも大学に還元できたことが大変光栄です」とのコメントが寄せられました。

さらに、研修ラインナップがひと目でわかり、職員が各研修の情報によりアクセスしやすくなるよう、職員研修WEBサイトも併せて制作し、公開しています(学内限定)。

今後も人事部職員育成課では、新たな京都大学職員研修・成長支援体系のもと、世界に伍する研究大学の実現に向け、職員の成長を支援していきます。



Kyoto U grow up プログラム (イメージ図)



Kyoto U grow up プログラム -Runway- (体系図)



表彰式の様子 (左から、馬場掛員、野崎理事、池田課長補佐)



職員研修 WEB サイトトップページ画面

(人事部(職員育成課))

[目次に戻る](#)

第15回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式を挙

優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰する、京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の第15回表彰式を3月6日（月）に挙りました。表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、昨年度と同様に今年度もWeb会議システムを使用したライブ配信形式で実施し、学内外から多くの視聴がありました。

表彰式では、最初に選考委員長である稲垣恭子 理事・副学長から、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶があり、引き続き、たちばな賞学生部門受賞者の片田 舞さん（理学研究科博士後期課程2年）、研究者部門受賞者の山田真澄 防災研究所准教授に、湊 長博 総長から表彰状と記念楯が授与されました。続いて、副賞の「ワコール賞」が加茂下泰生 株式会社ワコール取締役常務執行役員から贈呈されました。

また、優秀女性研究者賞奨励賞受賞者の藏田典子さん（人間・環境学研究科博士後期課程3年）、杉山由里子さん（アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程5年）、酒井朋子 人文科学研究所准教授にも、同じく湊総長から表彰状と加茂下取締役常務執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

その後、湊総長から受賞者へ祝福の言葉と女性研究者のさらなる活躍を期待するエールが送られ、加茂下取締役常務執行役員から受賞者へ祝辞が述べられました。

引き続き、たちばな賞受賞者による研究発表が行われ、片田さんは「絡み目の量子不変量が値をもつヤコビ図の空間への自由群の自己同型群の作用の研究」について、山田准教授は「地震計を用いたリアルタイム災害モニタリング」について発表し、会場の関係者は熱心に聞き入っていました。最後に、平島崇男 理事・副学長から閉会の挨拶があり、盛況のうちに終了しました。



表彰状・記念楯授与の様子



受賞者および関係者



祝辞を述べる湊総長



祝辞を述べる加茂下取締役常務執行役員

大学の
動き

たちばな賞（優秀女性研究者賞）

学生部門 片田 舞 理学研究科博士後期課程2年

研究者部門 山田真澄 防災研究所准教授

優秀女性研究者奨励賞

学生部門 藏田典子 人間・環境学研究科博士後期課程3年

学生部門 杉山由里子 アジア・アフリカ地域研究研究科博士後期課程5年

研究者部門 酒井朋子 人文科学研究所准教授

(人事部(職員育成課))

[目次に戻る ↗](#)

第1回京都大学北米 On-site Laboratory 合同シンポジウム: Transformative Innovations in Medical and Life Sciences を開催

第1回京都大学北米 On-site Laboratory 合同シンポジウム: Transformative Innovations in Medical and Life Sciences を、2月28日(火)に米国・サンディエゴにて開催し、YouTubeでもオンライン配信を行いました。

京都大学では、海外の大学や研究機関と共同で、全世界に11の現地運営型研究室「On-site Laboratory」を設置しています。このうち、北米を拠点とする京都大学サンディエゴ研究施設、グラッドストーン研究所iPS細胞研究拠点、量子ナノ医療研究センターの3つのラボと国際戦略本部が、医療・ライフサイエンス分野の卓越した最先端研究の成果を発信し、イノベーションの創出に貢献することを目的に、京都大学サンディエゴ研究施設を設置するカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)内のSanford Consortium for Regenerative Medicineで合同シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、会場とオンラインのハイブリッド形式で行われ、米国、日本をはじめ、ブラジル、イタリア、ニュージーランド、シンガポール、タイ、インド、中国、台湾、エチオピア、エジプト、パレスチナなど10カ国・地域以上から、研究者、学生などの学術関係者、政府関係者、企業関係者、同窓生など、210名の現地の参加登録と、526名のオンライン参加の登録があり、700名を超える参加がありました。

本シンポジウムでは、「Stem cells and cell reprogramming(幹細胞と細胞リプログラミング)」、「Quantum science, nanomedicine, and radiation therapy(量子科学、ナノ医療、放射線治療)」、「Cancer immunotherapy(がん免疫療法)」の3つのセッションに分かれて日本および米国の研究者が研究発表を行いました。湊 長博総長による開会挨拶、Corinne Peek-Asa カリフォルニア大学サンディエゴ校 Vice Chancellor for Research による歓迎挨拶に続き、山中伸弥 iPS細胞研究所教授が「Recent Progress in iPSC Research and Application」と題したオープニング



湊総長による開会挨拶



Peek-Asa Vice Chancellor for Research による歓迎挨拶

大学の
動き

基調講演を行いました。続いて、Juan Carlos Izpisua Belmonte Altos Labs San Diego Institute of Science Director、高橋 淳 iPS細胞研究所長、Toshiki Tajima カリフォルニア大学アーバイン校 Norman Rostoker Chair 教授、鈴木 淳 高等研究院物質-細胞統合システム拠点教授、湊総長、La Jolla Institute for Immunology の Mitchell Kronenberg Chief Scientific Officer により、研究発表が行われました。各セッションの研究発表の後、斎藤通紀 高等研究院ヒト生物学高等研究拠点長が「From *in vitro* gametogenesis to human biology」と題したクロージング基調講演を行いました。

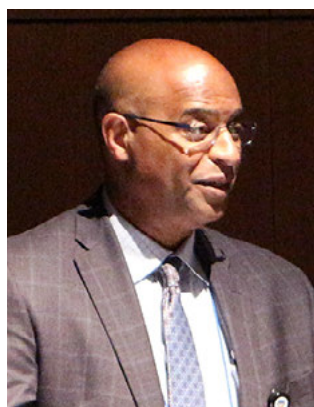


会場の様子

各講演後の質疑応答では、参加した学生および研究者から、質問や今後の医療・ライフサイエンス分野の研究への期待が熱心に寄せられ、分野を超えた活発な議論が行われました。

最後に、John M. Carethers カリフォルニア大学サンディエゴ校 Vice Chancellor for Health Sciences による挨拶があり、盛況のうちに閉会しました。

シンポジウム終了後には、レセプション兼ネットワーキングイベントが実施され、参加者はサンディエゴ・ラホヤの美しい夕陽を楽しみながら活発に交流を行い、親交を深めました。



Carethers Vice Chancellor for Health Sciences による閉会挨拶



集合写真

(企画部 (国際交流課))

[目次に戻る ↗](#)

令和4年度「総長賞表彰式」を挙

学業・課外活動・社会貢献活動等において顕著な活躍をし、本学の名誉を高めた学生および学生団体を表彰する「京都大学総長賞」の令和4年度表彰式を、3月20日(月)に挙

行了。今回は、全14件の推薦の中から選考の結果、学業から2名、課外活動から2名と2団体の受賞者を表彰しました。

今年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から、表彰式を簡素化して行うこととなりました。湊 長博 総長が表彰状などの授与および講評を行った後、湊総長と受賞者が受賞内容について懇談し、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。

大学の
動き



表彰式の様子



受賞者および関係者

令和4年度総長賞受賞者一覧

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
理学研究科生物科学専攻 DC 3 回生 モリヤ ケンタ 守屋 健太	学業	気孔のないコケ植物ゼニゴケにおける気孔形成因子の役割を世界で初めて明らかにし、これまで考えられてきた植物の気孔の進化の仮説を覆す極めて重要な発見をした。
医学研究科 人間健康科学系専攻 DC 3 回生 ギユウ セン Niu Qian	学業	機械学習 (ML)、自然言語処理 (NLP) 技術を活用した大規模なソーシャルメディア分析により、COVID-19 パンデミック前後のワクチンと COVID-19 感染に関する公衆の意見・感情・検索行動を分析した。この成果は Journal of Medical Internet Research などに筆頭著者 5 報、共著 3 報の国際学術誌論文、2 報の学会にて発表を行い、優れた研究成果を上げている。また本研究で用いた手法は学術誌だけでなく、広い分野で注目を集め、京都大学の学生では初めての Google PhD Fellowship を獲得した。
工学部物理工学科 2 回生 ヤマナカ シュン 山中 駿	課外	「天皇賜杯第 91 回」において、男子走高跳で優勝し、2021 年の「第 37 回 U20 日本陸上競技選手権大会」において、男子走高跳で 6 位入賞を果たすなど、国内の主要大会にて数多くの好成績を取めた。
工学部地球工学科 3 回生 イワイ ハルコ 岩井 温子	課外	大学生女子の囲碁個人戦日本一を決める唯一の大会である、第 58 回全日本女子学生本因坊決定戦において優勝した。本大会で京都大学の学生が優勝したのは初めてである。
京都大学囲碁部 (代表) 医学部医学科 3 回生 オトベ マサナリ 乙部 正成	課外	2022 年度の春期関西リーグ (大学対抗団体戦の関西予選) で優勝、秋期関西リーグにおいて準優勝し、その後 11 月 26 日に行われた立命館大学との代表決定戦に勝利した。 その結果 12 月 24 日～26 日に行われた第 66 回全日本大学囲碁選手権に関西代表として出場した。 結果としては京都大学の優勝に終わり、1998 年以来 24 年ぶりの全日本 2 連覇を達成した (決勝では東京大学に勝利)。
SHINOBI (代表) 工学研究科 機械理工学専攻 DC 1 回生 ミチカワ リョウヘイ 道川 稜平	課外	2022 年 7 月 13 日～16 日に開催された Robo Cup 世界大会のレスキュー実機リーグで総合優勝した。ロボットデモやメディア対応にも積極的に取り組み、社会におけるレスキューロボットの認知度を高めた。

【関連リンク】

令和4年度総長賞受賞者一覧

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/r4-presidents-award-619d3e8c19db75d191ae7ac1f772d9ea.pdf>

(教育推進・学生支援部(厚生課))

[目次に戻る ↗](#)

令和4年度卒業式を挙行

3月24日(金)京都市勧業館みやこめっせにおいて、井村裕夫 元総長、教育・学生担当理事、各部局長の出席のもとに、令和4年度卒業式を挙行しました。

湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。



学位記授与の様子



式典に臨む卒業生

学位授与者数は次のとおりです。

学士

学位名	2023年3月10日、24日付卒業者数			左記のうち留学生数			旧制卒業者数	累計
	男	女	計	男	女	計		
学士(総合人間学)	89	27	116	0	1	1	-	3,451
学士(文学)	118	78	196	0	2	2	4,711	18,446
学士(教育学)	39	31	70	1	2	3	-	4,027
学士(法学)	221	82	303	1	0	1	14,531	39,714
学士(経済学)	198	55	253	1	4	5	8,067	24,702
学士(理学)	290	33	323	1	0	1	2,984	20,695
学士(医学) ^{*1}	103	20	123	0	0	0	5,673	13,286
学士(人間健康科学) ^{*1}	31	71	102	0	0	0	-	2,126
学士(薬学) ^{*1*2}	13	13	26	0	0	0	-	4,086
学士(薬科学)	42	22	64	1	1	2	-	756
学士(工学)	820	95	915	18	14	32	8,606	68,223

大学の
動き

学位名	2023年3月10日、 24日付卒業生数			左記のうち留学生数			旧制 卒業生数	累計
	男	女	計	男	女	計		
学士（農学）	207	110	317	2	3	5	3,392	21,811
小計	2,171	637	2,808	25	27	52	47,964	221,323
附属医学専門部	-	-	-	-	-	-	804	804
理工科大学	-	-	-	-	-	-	944	944
総計	2,171	637	2,808	25	27	52	49,712	223,071

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付卒業

薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付卒業

医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付卒業

※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

[目次に戻る](#)

令和4年度大学院学位授与式を挙行

3月24日（金）京都市勧業館みやこめっせにおいて、教育・学生担当理事、各部局長の出席のもと、令和4年度大学院学位授与式を挙行了しました。

湊長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。



式辞を述べる湊総長



学位記授与の様子

学位授与者数は次のとおりです。

修士

学位名	2023年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	51	34	85	5	12	17	5,556
修士（教育学）	16	10	26	2	4	6	1,692
修士（法学）	10	13	23	6	13	19	1,581
修士（経済学）	36	28	64	15	23	38	2,130
修士（理学）	244	43	287	10	5	15	12,388
修士（医科学）	10	17	27	4	10	14	463
修士（人間健康科学）	21	51	72	2	0	2	821

大学の
動き

学位名	2023年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（薬科学）	32	17	49	0	2	2	743
修士（工学）	605	92	697	48	25	73	36,047
修士（農学）	169	116	285	11	17	28	11,878
修士（人間・環境学） ^{※1}	71	63	134	10	26	36	4,077
修士（エネルギー科学）	117	16	133	17	4	21	3,196
修士（地域研究） ^{※2}	11	8	19	0	0	0	492
修士（情報学）	166	12	178	28	5	33	4,383
修士（生命科学）	43	29	72	2	5	7	1,748
修士（総合学術） ^{※2}	3	0	3	0	0	0	70
修士（地球環境学）	14	20	34	4	8	12	786
修士（文学）国際連携	1	4	5	1	2	3	25
修士（社会健康医学）	-	-	-	-	-	-	66
修士（薬学）	-	-	-	-	-	-	2,299
総計	1,629	573	2,193	165	161	326	90,441

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

※1：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名含む

※2：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学位名	2023年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	13	17	30	2	2	4	594
公共政策修士（専門職）	22	16	38	3	3	6	643
経営学修士（専門職）	54	47	101	19	23	42	1,288
総計	89	80	169	24	28	52	2,525

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

法務博士（専門職）

学位名	2023年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	78	38	116	0	0	0	2,765
総計	78	38	116	0	0	0	2,765

大学の
動き

博士

令和4年11月24日付、令和5年1月23日付、3月23日付

■課程博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数*）									総計	累計
	2022年11月			2023年1月			2023年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	3	0	3	0	1	1	15	5	20	24	1,225
	0	0	0	0	1	1	5	2	7	8	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	6	5	11	11	291
	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	7	4	11	11	421
	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	
博士（経済学）	0	0	0	1	0	1	9	1	10	11	749
	0	0	0	1	0	1	5	1	6	7	
博士（理学）	0	1	1	3	1	4	79	10	89	94	6,043
	0	0	0	0	1	1	11	4	15	16	
博士（医学）	7	3	10	6	2	8	38	21	59	77	10,714
	0	1	1	0	0	0	4	7	11	12	
博士（医科学）	0	0	0	0	1	1	5	0	5	6	149
	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	
博士（社会健康医学）	1	1	2	0	0	0	0	2	2	4	129
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	1	1	0	1	1	4	2	6	8	114
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	7	1	8	8	1,173
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	11	5	16	16	176
	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4	
博士（工学）	4	1	5	2	1	3	71	9	80	88	6,533
	1	1	2	1	1	2	20	5	25	29	
博士（農学）	1	2	3	0	1	1	27	10	37	41	3,208
	0	2	2	0	1	1	8	4	12	15	
博士（人間・環境学）	1	0	1	0	0	0	18	9	27	28	1,083
	0	0	0	0	0	0	4	2	6	6	
博士（エネルギー科学）	1	0	1	0	1	1	6	1	7	9	461
	1	0	1	0	1	1	1	1	2	4	
博士（地域研究）	1	0	1	1	0	1	4	2	6	8	316
	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	
博士（情報学）	0	0	0	0	1	1	22	2	24	25	836
	0	0	0	0	0	0	10	1	11	11	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [※] ）									総計	累計
	2022年11月			2023年1月			2023年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（総合学術） ^{※1}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	1	0	1	0	2	2	7	5	12	15	501
	1	0	1	0	2	2	1	0	1	4	
博士（総合学術） ^{※2}	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4	29
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	1	0	1	0	0	0	1	3	4	5	240
	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	2	3	5	5	28
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（ゲノム医学） 国際連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	21	9	30	13	12	25	340	103	443	498	※3 34,423
	4	4	8	2	8	10	77	35	112	130	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

※1：情報学研究所 ※2：総合生存学館 ※3：旧制9,651名含む

■論文博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [※] ）									総計	累計
	2022年11月			2023年1月			2023年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	1	1	2	1	0	1	1	0	1	4	669
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180
博士（法学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	204
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	409
博士（理学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,578
博士（医学）	5	1	6	4	1	5	6	2	8	19	2,280
博士（医科学）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	10
博士（社会健康医学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	774
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
博士（工学）	0	0	0	1	0	1	5	0	5	6	4,209
博士（農学）	2	0	2	2	1	3	1	0	1	6	2,912
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [*] ）									総計	累計
	2022年11月			2023年1月			2023年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	32
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（情報学）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	97
博士（生命科学）	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	28
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
総計	9	3	12	9	2	11	16	4	20	43	13,551
	1	0	1	0	0	0	1	1	2	3	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■博士課程教育リーディングプログラム（博士課程の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [*] ）									総計	累計
	2022年11月			2023年1月			2023年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4	32
グローバル生存学 大学院連携プログラム	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	51
充実した健康長寿社会 を築く総合医療開発 リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	30
	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
デザイン学大学院連携 プログラム	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	31
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
霊長類学・ワイルドラ イフサイエンス・リー ディング大学院	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4	25
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
総計	0	0	0	1	0	1	3	9	12	13	169
	0	0	0	0	0	0	1	4	5	5	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■卓越大学院プログラム（博士課程の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [*] ）									総計	累計
	2022年11月			2023年1月			2023年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス創成学	0	0	0	0	0	0	8	0	8	8	24
メディカルイノベーション	0	0	0	0	0	0	4	0	4	4	4
総計	0	0	0	0	0	0	12	0	12	12	28

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る](#)

大学の
動き

令和5年度学部入学式を挙行

4月7日(金)京都市勧業館みやこめっせにおいて、山極壽一 前総長、教育・学生・入試担当理事、各部局長の出席のもとに、令和5年度学部入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。



式辞を述べる湊総長



式典に臨む入学生

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和5年度 学部入学者数

令和5年4月1日現在

区 分	一般選抜		外国学校 出身者選抜		外国人留 学生特別選抜		学士入学		再入学		特色入試		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
総合人間 学部	87	118	0	0	0	3	0	0	0	0	4	4	0	0	91	125
	31		0		3		0		0		0		0		34	
文学部	113	214	0	0	1	1	0	1	0	0	2	9	0	0	116	225
	101		0		0		1		0		7		109			
教育学部	27	58	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	4	7	32	68
	31		0		1		0		1		3		36			
法学部	215	309	1	3	1	2	0	0	1	1	17	21	3	4	238	340
	94		2		1		0		0		4		1		102	
経済学部	177	221	2	6	1	4	0	0	1	1	8	15	2	2	191	249
	44		4		3		0		0		7		0		58	
理学部	284	305	0	0	5	7	0	0	0	0	10	12	0	0	299	324
	21		0		2		0		0		2		0		25	
医学部 (医学科)	86	108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	86	110
	22		0		0		0		0		2		0		24	
医学部(人間 健康科学科)	44	83	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24	0	5	45	112
	39		0		0		0		0		23		5		67	
薬学部	48	79	0	0	1	1	0	0	0	0	1	4	0	0	50	84
	31		0		0		1		0		3		0		34	

大学の
動き

区分	一般選抜		外国学校 出身者選抜		外国人留 学生特別選抜		学士入学		再入学		特色入試		編入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
工学部	833	916	0	0	14	27	0	0	0	0	17	30	2	5	866	978
	83		0		13		0		0		13		3		112	
農学部	186	290	0	0	1	4	0	0	0	0	7	12	0	0	194	306
	104		0		3		0		5		0		112			
総計	2,100	2,701	3	9	25	51	0	1	2	2	67	134	11	23	2,208	2,921
	601		6		26		1		0		67		12		713	

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る](#)

令和5年度大学院入学式を挙行

4月7日（金）京都市勧業館みやこめっせにおいて、教育・学生・入試担当理事、各部局長の出席のもとに、令和5年度大学院入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。



式辞を述べる湊総長



式典の様子

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和5年度 修士課程入学者数

令和5年4月1日現在

区分	入学			転入学			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	61 (11)	37 (16)	98 (27)	3	2	5	64 (11)	39 (16)	103 (27)
教育学研究科	23 (4)	23 (4)	46 (8)	0	0	0	23 (4)	23 (4)	46 (8)
法学研究科	9 (7)	8 (7)	17 (14)	0	0	0	9 (7)	8 (7)	17 (14)
経済学研究科	45 (27)	14 (12)	59 (39)	0	0	0	45 (27)	14 (12)	59 (39)
理学研究科	259 (9)	36 (4)	295 (13)	0	0	0	259 (9)	36 (4)	295 (13)
医学研究科（医科学専攻等）	11 (1)	13 (6)	24 (7)	0	0	0	11 (1)	13 (6)	24 (7)

大学の
動き

区 分	入 学			転入学			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
医学研究科 (人間健康科学系専攻)	25 (0)	45 (1)	70 (1)	0	0	0	25 (0)	45 (1)	70 (1)
薬学研究科	36 (1)	21 (3)	57 (4)	0	0	0	36 (1)	21 (3)	57 (4)
工学研究科	604 (29)	100 (26)	704 (55)	0	0	0	604 (29)	100 (26)	704 (55)
農学研究科	191 (9)	110 (11)	301 (20)	0	0	0	191 (9)	110 (11)	301 (20)
人間・環境学研究科	79 (19)	61 (21)	140 (40)	0	0	0	79 (19)	61 (21)	140 (40)
エネルギー科学研究科	116 (8)	9 (0)	125 (8)	0	0	0	116 (8)	9 (0)	125 (8)
情報学研究科	206 (41)	14 (6)	220 (47)	0	0	0	206 (41)	14 (6)	220 (47)
生命科学研究科	38 (1)	36 (1)	74 (2)	0	0	0	38 (1)	36 (1)	74 (2)
地球環境学舎	15 (2)	21 (12)	36 (14)	0	0	0	15 (2)	21 (12)	36 (14)
総 計	1,718 (169)	548 (130)	2,266 (299)	3	2	5	1,721 (169)	550 (130)	2,271 (299)

※ () 内は、留学生 (在留資格「留学」) で、内数

令和5年度 専門職学位課程入学者数

令和5年4月1日現在

区 分	合 計		
	男	女	計
法学研究科 (法科大学院)	113 (0)	44 (0)	157 (0)
医学研究科	19 (2)	21 (1)	40 (3)
公共政策教育部	32 (3)	14 (2)	46 (5)
経営管理教育部	52 (18)	43 (23)	95 (41)
総 計	216 (23)	122 (26)	338 (49)

※ () 内は、外国人留学生 (留学ビザ留学生) で、内数

令和5年度 博士 (後期) 課程入学者数

令和5年4月1日現在

区 分	進 学		入 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女	
文学研究科 博士後期課程	26(3)	36(7)	0	0	6(1)	8(3)	32(4)	44(10)
	10(4)		0		2(2)		12(6)	
教育学研究科 博士後期課程	5(1)	8(3)	0	0	5(0)	7(0)	10(1)	15(3)
	3(2)		0		2(0)		5(2)	
法学研究科 博士後期課程	9(4)	13(7)	0	0	3(0)	3(0)	12(4)	16(7)
	4(3)		0		0(0)		4(3)	
経済学研究科 博士後期課程	10(2)	11(3)	0	0	2(0)	2(0)	12(2)	13(3)
	1(1)		0		0		1(1)	

大学の
動き

区 分	進 学		入 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女	
理学研究科 博士後期課程	89(7)	96(9)	0	0	17(6)	23(9)	106(13)	119(18)
	7(2)		0		6(3)		13(5)	
医学研究科 博士後期課程	8(3)	23(12)	0	0	6(2)	13(5)	14(5)	36(17)
	15(9)		0		7(3)		22(12)	
医学研究科 博士課程(四年) ^{*1}	1(1)	3(3)	113(12)	162(29)	0	0	114(13)	165(32)
	2(2)		49(17)		0		51(19)	
医学研究科(人間健康科学系専攻) 博士後期課程	5(0)	12(0)	0	0	3(1)	8(2)	8(1)	20(2)
	7(0)		0		5(1)		12(1)	
薬学研究科 博士後期課程	12(0)	15(0)	0	0	5(0)	7(0)	17(0)	22(0)
	3(0)		0		2(0)		5(0)	
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	6(0)	7(0)	0	0	6(0)	7(0)
	0		1(0)		0		1(0)	
薬学研究科 博士課程(一貫)	0	0	12(1)	13(1)	0	0	12(1)	13(1)
	0		1(0)		0		1(0)	
工学研究科 博士後期課程	78(23)	92(32)	0	0	37(17)	51(30)	115(40)	143(62)
	14(9)		0		14(13)		28(22)	
農学研究科 博士後期課程	20(3)	36(8)	0	0	15(5)	22(7)	35(8)	58(15)
	16(5)		0		7(2)		23(7)	
人間・環境学研究科 博士後期課程	21(3)	41(11)	0	0	15(6)	27(12)	36(9)	68(23)
	20(8)		0		12(6)		32(14)	
エネルギー科学研究科 博士後期課程	8(3)	9(3)	0	0	4(1)	6(3)	12(4)	15(6)
	1(0)		0		2(2)		3(2)	
アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程(一貫)	0	0	9(1)	24(3)	3(1)	4(1)	12(2)	28(4)
	0		15(2)		1(0)		16(2)	
情報学研究科 博士後期課程	21(7)	22(7)	0	0	15(5)	15(5)	36(12)	37(12)
	1(0)		0		0		1(0)	
生命科学研究科 博士後期課程	10(1)	20(5)	0	0	3(0)	5(2)	13(1)	25(7)
	10(4)		0		2(2)		12(6)	
地球環境学舎 博士後期課程	3(1)	4(2)	0	0	4(2)	8(4)	7(3)	12(6)
	1(1)		0		4(2)		5(3)	
経営管理教育部 博士後期課程	0	1(0)	0	0	4(0)	6(0)	4(0)	7(0)
	1(0)		0		2(0)		3(0)	

大学の
動き

区 分	進 学		入 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女	
総合生存学館 博士課程（一貫）	0	0	5(2)	9(5)	0	0	5(2)	9(5)
	0		4(3)		0		4(3)	
総 計	326(62)	442(112)	145(16)	215(38)	147(47)	215(83)	618(125)	872(233)
	116(50)		70(22)		68(36)		254(108)	

※（ ）内は、留学生（在留資格「留学」）で、内数

※1：進学3名は、本学他研究科修士課程または専門職学位課程修了後、当該課程に進学した者

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)

「京都大学ポスターセッション2022」を開催

本学主催の高校生によるポスター発表「京都大学ポスターセッション2022」を、3月18日（土）に百周年時計台記念館国際交流ホールにて開催しました。本企画は、ポスター発表を通じて高校生が日頃の課題探究活動の成果を披露するもので、今回で6回目の開催となりました。

今年は、全国の国公私立33校から76名の高校生が参集し、文系理系合わせて33テーマのポスターが出展されました。参加した高校生は、制作したポスターの前で発表や質疑応答を行ったほか、他校のポスター発表にも熱心に耳を傾け、研究について意見交換を行いました。

表彰式では、本学関係者による審査の結果、特に優れたポスター発表を行った3校に対し、優秀ポスター賞の賞状とトロフィーを贈呈しました。最後に、村上 章 理事・副学長（高大接続・入試センター長）より全体講評を行い、ポスター発表に取り組んだすべての参加校に賛辞を送り、閉会となりました。

優秀ポスター賞を受賞した高校生

<受賞校・研究テーマ>

京都市立堀川高等学校

「重力レンズ効果を再現するレンズ
の製作と性能評価」

広島大学附属高等学校

「白色ゴーヤーの過熟時の変色に関
する研究」

徳島市立高等学校

「線虫 C.elegans に対して忌避効果
を示す物質の探索～徳島の名産ス
ダチの秘めた可能性とは…?!～」



（教育推進・学生支援部（入試企画課））

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

プログラム「テクノロジーが美となる時」の展示会を開催

産官学連携本部 イノベーション マネジメント サイエンス起業・教育部は、主催するプログラム「テクノロジーが美となる時」の一環で、2月17日(金)から19日(日)にかけて、展示会「Technology Reimagines Timeless Beauty」を、ニューヨークのギャラリー NowHereで開催しました。本イベントは、三菱みらい育成財団および京都府による後援、在ニューヨーク日本国総領事館の協力のもとで実施されました。

プログラム「テクノロジーが美となる時」は、伝統美を現代の技術で学生が再提案することをテーマに起業家的精神に資する異能を育成するもので、全国から応募のあった高校生および大学生23名が受講しました。受講者はチームで作品を制作し、そのうちの選抜者7名が展示会に向けて渡米しました。

展示会では、機械学習により浮世絵を自動生成するプリントシール機を模した作品、宇宙での茶道をテーマにCGや3Dプリンティングを駆使した作品のほか、授業や工房見学の内容を展示しました。レセプションには現地のニューヨーク市民約200名、展示会には3日間で約400名が訪れました。本プログラムの企画・設計を担当した本多正俊志 産官学連携本部特任准教授が取り組みについて説明し、「美は新しい価値創造であり、Z世代の感性で取り組むことは有意義」と述べました。

京都の衣食住はユニークであることから、技術がいかに都市を変革するかについて、コロンビア大学教授などニューヨークを拠点とする技術者およびアーティストらとともに「都市の拡張」、「データ社会とマルチメディア」、「都市化と生物生態系」と題した対談も併せて行いました。

なお、本展示会については、国内の各種報道のほか、現地メディアでも取り上げられました。



展示会の様子 1



展示会の様子 2

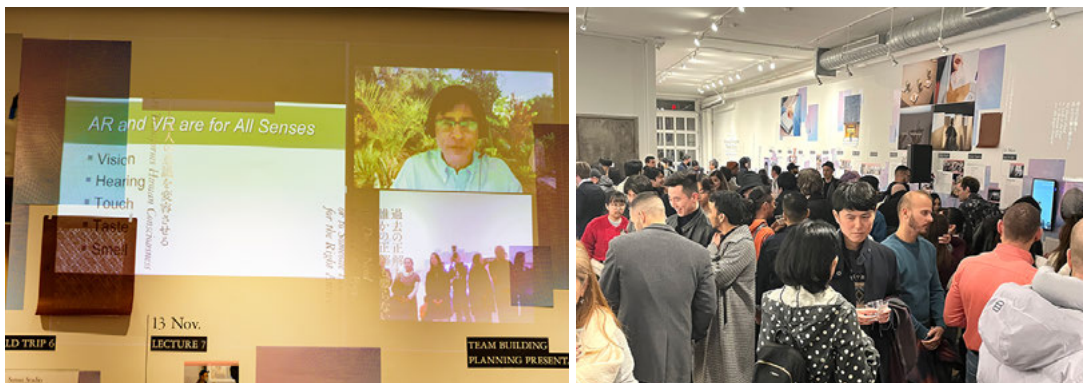


参加学生



取り組みを説明する本多特任准教授

大学の
動き



Steven K. Feiner コロンビア大学教授の講演（オンライン） レセプションの様子



対談の様子 1



対談の様子 2

(研究推進部 (産官学連携課))

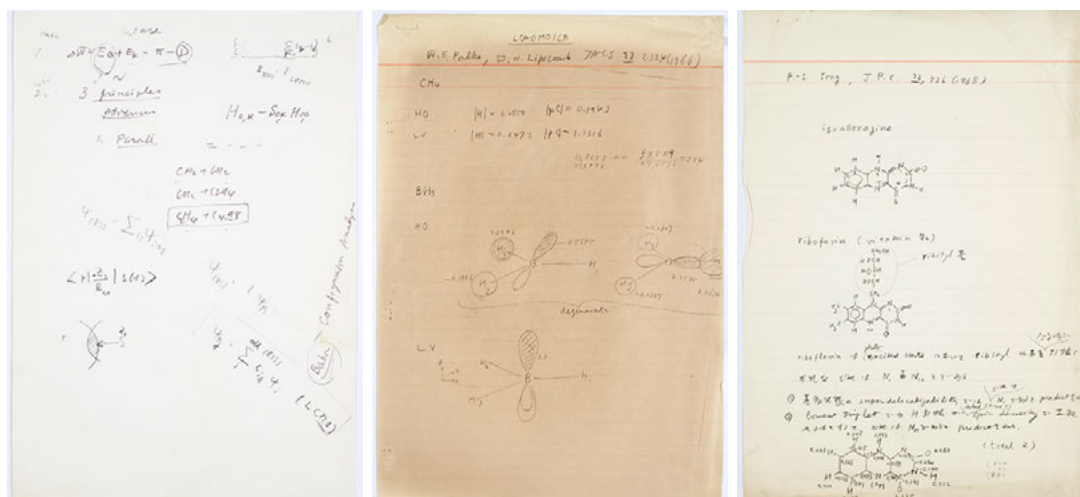
[目次に戻る ↗](#)



京都大学研究資源アーカイブが「福井謙一研究資料, 1936-1988 (主年代 1940-1982)」を公開

京都大学研究資源アーカイブは、本学における教育や研究のプロセスで収集または作成された資料群をアーカイブズとして永続的に学内外で利用可能にする取り組みであり、今回は、「福井謙一研究資料, 1936-1988 (主年代 1940-1982)」を公開しました。

1981年にノーベル化学賞を受賞した福井謙一が残した研究および国際会議開催に関係する資料群であり、1979年に京都で開催された「第3回量子化学国際会議 International Congress of Quantum Chemistry」の準備段階で作成された文書や書簡、主に1940年代から80年代の研究メモと研究者との書簡、博士論文などの手稿を含みます。特に、理論から実験にわたる広範な研究メモは、自ら研究テーマを記した封筒やファイルに分類されており、福井謙一の関心の広さと深さを資料群から知ることができます。



左：フロンティア軌道理論の構想メモ

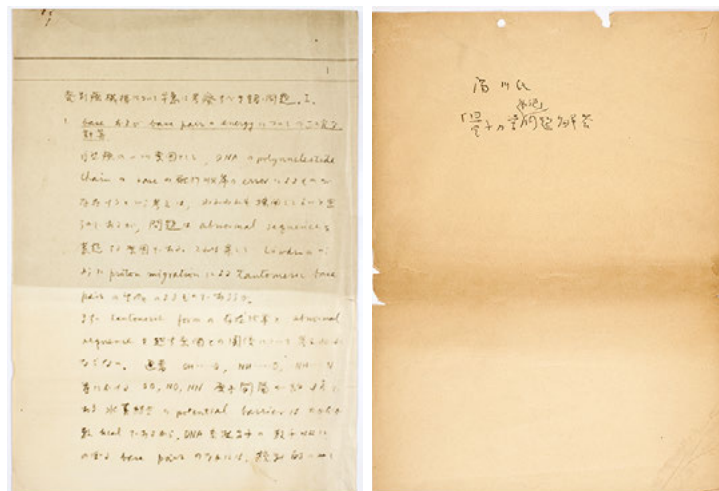
資料情報：[会議資料 008-01/001] , FFC MIXED 2018/1/S01/008-01/001.

中：メタン分子の HOMO と LUMO の MO 係数の考察

資料情報：[研究メモ 192-04/001] , FFC MIXED 2018/1/S02-2/192-04/001.

右：イソアロキサジンとリボフラビンの光励起状態で分子内水素脱離が起こる現象についての検討

資料情報：[研究メモ 229-04/001] , FFC MIXED 2018/1/S02-2/229-04/001.



左：発制癌機構について早急に考察すべき諸問題 I

資料情報：[研究メモ 255-09/001] , FFC MIXED 2018/1/S02-3/255-09/001.

右：『量子力学序説』(演習問題) 解答ノート

資料情報：湯川氏「量子力学序説」問題解答, FFC MIXED 2018/1/S03/286.

以上すべて、「福井謙一研究資料, 1936-1988 (主年代 1940-1982)」, 京都大学 (資料所蔵: 京都大学福井謙一記念研究センター, データ提供: 京都大学研究資源アーカイブ)。



[出所・資料作成] 福井謙一（ふくい・けんいち、1918–1998）
[資料年代] 1936年～1988年（主年代1940年～1982年）
[資料所蔵] 京都大学福井謙一記念研究センター
[目録作成] 2021年
[数量] 書簡や研究メモ等927フォルダ、手稿（論文等）16点
[メタデータ] 1,755レコード

【関連リンク】

京都大学研究資源アーカイブ

<https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/>

福井謙一研究資料, 1936–1988 (主年代1940–1982)

<https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/archives/2824/>

「福井博士の品 化学遺産に」(『読売新聞』2023年3月4日)

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kyoto/news/20230303-OYTNT50215/>

塩瀬隆之「平成30年度企画展／福井謙一博士生誕百年記念展示『ノーベル賞化学者を育んだ教室—応用をやるには、基礎をやれ—』」(『京都大学総合博物館ニュースレター』44, 2018, 2–3頁)

<http://hdl.handle.net/2433/235560>

(総合博物館)

[目次に戻る ↗](#)

2022年度冬季アジア未来リーダー育成奨学金プログラム (AFLSP) 成果報告会を開催

本学主催による、アジア未来リーダー育成奨学金プログラム (Asian Future Leaders Scholarship Program、以下AFLSP)※の第7回目となる2022年度冬季成果報告会を2月4日(土)に開催しました。

はじめに、内田勝一 百賢亜州研究院 (Bai Xian Asia Institute, BXAI) Academic Committee代表から開会の挨拶があり、本学におけるAFLSPに対する取組みへの期待が述べられました。続いて、アジア未来リーダー育成奨学金プログラムタスクフォース座長である藤



成果報告会の様子



集合写真



原正幸 農学研究科教授から、本学が参加してから9年目を迎える本プログラムの目的や、本学奨学生の研究・社会活動の成果を発信する場として本報告会を開催していることなどが述べられました。

報告会では、趙 亮 総合生存学館准教授および張 凱淳 工学研究科講師による運営のもと、5名の奨学生が自身の研究成果や社会貢献などについて報告を行った後、2022年4月から開始した、奨学生が2～3名のチームで研究を行うTeam-Project Based Research (T-PBR)の研究成果について、各チームより報告を行いました。

発表を受けて、審査員から講評があり、優れた取り組みおよび発表を行った奨学生とT-PBRの最優勝チームに対し表彰を行いました。

本奨学金プログラムを通じて、学生たちが文化の多様性についての理解を深め、国際社会で活躍するリーダーとしての資質を育む機会となることが期待されます。

※アジア未来リーダー育成奨学金プログラム (Asian Future Leaders Scholarship Program)

アジア太平洋地域内での、海外留学を望むアジアの若者たちを支援し、異文化間理解を深め、将来のアジアおよび世界の友好・発展に寄与する人材を育成することを目的として、百賢亜州研究院 (Bai Xian Asia Institute) が主体となって2014年より実施が始まりました。京都大学を含む日中6大学がパートナー大学として選ばれ、毎年100名程度の奨学生を受け入れています。本学では毎年約10名の奨学生の受け入れを実施しています。

Asian Future Leaders Scholarship Program at Kyoto University | AFLSP@KU

<https://www.aflsp.kyoto-u.ac.jp/>

Bai Xian Asia Institute

<https://www.bxai.org/>

(国際・共通教育推進部 (留学生支援課))

[目次に戻る ↗](#)

左京消防署との合同消防訓練および令和4年度京都大学医学部附属病院災害対策訓練を実施

医学部附属病院では、3月7日(火)に左京消防署と合同消防訓練、翌8日(水)に令和4年度京都大学医学部附属病院災害対策訓練を実施しました。

3月7日の合同消防訓練は、積貞棟6階から出火し、逃げ遅れた患者がいるという想定で実施されました。火災報知器発報後、自衛消防隊が参集し、初期消火および避難誘導の訓練を行いました。その後、積貞棟6階に取り残された患者3名の救助を想定した、左京消防隊による大型はしご車を用いた救助訓練が行われました。この大型はしご車は日本に2台しかない特殊なもので、バスケット部分に5名搭乗することができ、車椅子患者の救助も可能です。訓練終了後には奥田浩喜 左京消防署長より講評があり、訓練は終了しました。

翌3月8日は、「京大病院事業継続計画 (BCP)」の検証と防災意識の高揚を図るため、令和4年度京都大学医学部附属病院災害対策訓練を実施しました。平日の昼間 (14時頃) に左京区内において震度7の地震が発生した想定で行われ、本訓練の日時や被災状況などの設定は、参加者には非公開のうえ、実施しました。訓練開始の放送後、災害対策本部要員となるスタッフが速やかに対策本部に参集し、それぞれの役割を確認しながら、建物や設備の被害状況な

部局の
動き



大型はしご車での救助訓練



大型はしご車を俯瞰した様子



左京消防署との合同消防訓練



災害対策本部

どの情報収集を行いました。また多数の傷病者が運ばれてくる想定のもと、トリアージエリアを設置し、傷病者役のスタッフを適切に振り分け、診療手順の確認を行いました。

医学部附属病院は、京都府災害拠点病院（2015年4月1日指定）として、今後も継続的に災害対策訓練を実施することにより、災害対応力のさらなる強化を図っていきます。

（医学部附属病院）

[目次に戻る ↗](#)

第18回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／ 京都大学新潟講演会を開催

研究連携基盤は、甲信越地方では初めてとなる京都大学附置研究所・センターシンポジウム（後援：新潟県教育委員会、新潟市教育委員会および読売新聞社）を、3月4日（土）に新潟市の新潟県民会館大ホールにおいて開催しました。シンポジウムは、前回に引き続き会場とオンラインのハイブリッド形式で行われ、合わせて約600名の参加がありました。

本シンポジウムは、「京都からの挑戦－地球社会の調和ある共存に向けて」をメインテーマとしており、今回は「創造への多様性－京大の多彩な最先端（カッティングエッジ）」をサブテーマに、京都大学の生命・生物系を例にさまざまな切り口・手法で行われている研究や講師自身のこれまでの歩みなどについての紹介を行いました。



開会挨拶を行う時任理事・副学長

部局の
動き

時任宣博 理事・副学長による開会挨拶の後、午前は、遠藤 寿 化学研究所准教授、三谷曜子 野生動物研究センター教授、酒井朋子 人文科学研究所准教授、午後は、前半の講演への質問回答を挟み、奥田 綾 複合原子力科学研究所助教、齊藤博英 iPS細胞研究所教授、亀井謙一郎 高等研究院 物質-細胞統合システム拠点客員准教授の講演と質問回答を行いました。

続くパネルディスカッションでは、講師6名に湊 長博 総長、時任理事・副学長が加わり、「多様であること-持続的発展ある未来に向けて」をテーマに、辻井敬亘 研究連携基盤長の司会で、生物多様性と研究多様性について活発な意見交換を行いました。

最後に、湊総長から総括・挨拶として、参加した高校生などに向けた、未来志向の熱いメッセージがあり、無事終了しました。

会場参加者からは、「非常に興味をもち、話に引き込まれた」、「京都大学の先生方の熱意に感銘を受けた」、「参加した高校にとっても、意義のあるイベントであった」などの意見がありました。



パネルディスカッションでの湊総長



パネルディスカッションの様子



総括・挨拶を行う湊総長

(研究連携基盤)

[目次に戻る](#)

理学の楽しさを伝える新しいコンセプトの情報誌「京大理で学ぼ。」を発行

理学部・理学研究科は、その学び、進路、生活をお伝えする情報誌「京大理で学ぼ。」を発行しました。紙媒体で配布するほか、Webサイトで電子書籍として無料公開しています。

「京大理で学ぼ。」では、「月刊フラワーズ」(小学館発行)で連載されている漫画「数字であそぼ。」とコラボレーションしています。「数字であそぼ。」は、架空の大学である「吉田大学」の理学部を舞台とした、数学と笑いがあるキャンパスライフコメディ漫画であり、本学理学部での生活や学びがモデルとなっています。著者である絹田村子さんに依頼し、今回のコラボレーションが実現しました。理学部・理学研究科および「月刊フラワーズ」編集部ともに、月刊誌連載中

部局の
動き

の漫画と実在する大学のコラボレーションは初めてのことです。

理学部・理学研究科では、ユニークな教授陣が独自の教育を行ってきました。しかし、受験生や保護者、高校教員の皆さまに、その教育内容や進路などの状況を伝えきれていないと考え、理学部での学びを広く伝えることで学生の進路の一助となるよう、理学研究科附属サイエンス連携探索センター（略称：SACRA）が中心となり、本誌を作成しました。

「京大理で学ぼう。」は、以下のサイトからご覧いただけます。

【関連リンク】

「京大理で学ぼう。」 | 京都大学理学研究科・理学部

<https://sci.kyoto-u.ac.jp/ja/about/publications/manabo>



「京大理で学ぼう。」表紙 © 絹田村子/小学館

(大学院理学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

フィールド科学教育研究センター芦生研究林とKDDI 株式会社が、生物多様性の保全に向けた包括連携協定を締結

3月9日(木)、フィールド科学教育研究センター芦生研究林とKDDI株式会社は、芦生研究林の生物多様性や生態系の保全・教育・研究の促進に寄与することを目的に、包括連携協定を締結しました。

1990年代の後半から、芦生研究林の貴重な植生が、個体数が増えたニホンジカの採食によって著しく衰退してしまいました。植物だけではなく、昆虫や魚などのさまざまな生き物や、土壌、河川にも影響が出ており、生態系の改変が進み危機的状況となっています。また、コロナ禍に



記者発表の様子



左から、石原正恵 フィールド科学教育研究センター准教授（芦生研究林長）、田中 稔 KDDI 株式会社理事・関西総支社長



におけるデジタル森林教育コンテンツの開発の必要性、研究者・学生を含め携帯電話圏外地域での通信手段確保などの課題もありました。

これらの課題解決のため、芦生研究林とKDDI、さらに舞鶴工業高等専門学校HANDMADE部が共同でVR動画を作成し、実習・イベントなどで教材として活用しました。また、生物多様性保全のための社員ボランティア活動を実施し、芦生研究林基金へもご寄付いただきました。さらに、2022年度は、KDDIのグループ会社（KDDIエンジニアリング）の協力も得て、LPWA（Low Power Wide Area；低消費電力で長距離のデータ通信を可能とする無線通信技術）を用いて林内における通信手段の実証実験なども行い、IoT鳥獣対策通知システムによるニホンジカの有害駆除（許可捕獲）や、教職員・学生が入林時にテキスト通信ができる機器（コミュニケーションツール）による通信の有効性が確認できました。

両者は本協定を通じて、芦生研究林の生態系や生物多様性の保全、芦生研究林に関する教育研究活動・普及啓発活動、DXや通信技術などを用いた芦生研究林に係る活動のさらなる発展高度化に取り組んでいきます。

【関連リンク】

報道発表資料「京都大学芦生研究林とKDDI、生物多様性の保全に向け包括連携協定を締結」

https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/kddi_press-6c3d17546de59b35eca965500155f60a.pdf

（フィールド科学教育研究センター）

[目次に戻る](#)

第8回森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」を開催

第8回森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」を、3月19日（日）に北部総合教育研究棟益川ホールとオンラインのハイブリッド形式で開催し、計155名が参加しました。本シンポジウムは、2022年度から始まった公益財団法人イオン環境財団の支援による、失われつつある里山・里海をどう考えるか、これからの里山・里海はどこを目指すのかをみんなで考える「新しい里山・里海の共創プロジェクト」の一環でもあります。

午前はプレ企画として、連携する全国の高校10校がポスター発表を行いました。高校生たちから、里山・里海をテーマに、田んぼや河川の生きもの調査やニホンウナギの保全、ヒシの繁茂と湖の水質との関係性といった日頃の研究成果について、熱心な発表がありました。京都大学教員が審査員となり、講評と表彰を行いました。

午後のシンポジウムでは、「みんなで創ろう！わたしたちの里山里海」をテーマに、湯本貴和 名誉教授が基調講演を行いました。「真」の生物多様性問題や、生態系サービスと里山・里海に関する解説があり、参加者の注目を集めました。続いて、フィールド科学教育研究センターの3施設（上賀茂試験地、舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所）から、若手教員が最新の研究トピックスを紹介しました。それぞれの講演について、グラフィックレコーディングを実施し、講演の内容をイラストで共有しました。

最後の質疑応答では、高校生や一般の参加者から「ウイルスが生態系、生物多様性に及ぼす影響」や、「里山・里海」の概念は海外で共有されているか？などの質問があり、それぞれパ

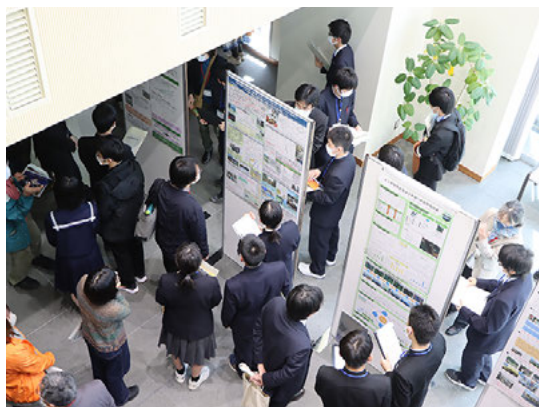
部局の
動き



高校生による口頭発表



会場の様子



高校生によるポスターセッション



湯本名誉教授の基調講演



質疑応答の様子



集合写真



基調講演のグラフィックレコーディング



3 施設紹介のグラフィックレコーディング



ネリストから回答がありました。また、『真』の生物多様性を守るために高校生ができることは?』という質問に対して、「まずは知ることから始めてほしい」と湯本名誉教授から回答がありました。益川ホールの参加者は89名で、対面開催の良さを再確認し、アンケート結果からもシンポジウムが好評であったことが伺えました。

【関連リンク】

第8回 森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2023-02-13>

(フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る ↗](#)

学びと仕事を限定せず、 幅広い努力を

片岡 方和



昭和44年3月、京都大学理学部を卒業したとき、以前から卒業式に出たいと言っていた母が、高知から土讃線、宇高連絡船、山陽本線を乗り継いで京都に来ました。ただ、その頃は学生運動の真っただ中で卒業式は無く、何とか理学部の事務室で卒業証書を受け取ったような状況でしたので、卒業式の代わりに近くにあった写真屋さんに来てもらって京大正門前で時計台をバックに母と私で写真を撮りました。最近のことのように懐かしく思い出しました。

京都大学に入学したのは、子供のころに本で読んだ湯川先生の講義を聞きたいというのが最初のきっかけでした。当時、湯川先生は基礎物理学研究所の所長でしたが、学部で2度ほど理学部生のための講義をしていただきました。先生の、相対性や絶対性に関する話を聞きながら、人生にはいろいろな生き方があり、私は私の人生を楽しみたいと考えようになりました。社会人になり、サラリーマン生活が始まりましたが、平成20年の58歳のとき、縁あって株式会社ちふれ化粧品の取締役になり、平成22年より代表取締役社長として、今日までサラリーマンを続けています。量子力学などの世界とは離れた生活を送ってきましたが、楽しんで仕事をすることができています。

最近では、当社グループの基本理念に基づき、「一人ひとりのゆたかな生活」のためにSDGsに積極的に取り組んでおり、特にジェンダー平等とカーボンニュートラルを重視しています。

まず、ジェンダー平等への取り組みについてです。当社はこれまでお客様である女性（最近は少しづつ男性も）のおかげで成長してこれましたし、BA（ビューティー・アドバイザー）をはじめ、多くの部署で女性従業員が活躍しています。従業員の産休、育休はもちろんのこと、子供が小学3年生になるまで時短勤務も取得できます。管理職に占める女性の割合も19%までになりましたが、2030年までには30%以上を目標としており、会社として今後さらなる努力が必要になります。

グループ会社では、WEリーグ（女子プロサッカーリーグ）に属するちふれASエルフェン埼玉を運営し、女子スポーツ選手を応援しています。今年は7月にオーストラリア・ニュージーランドで女子サッカーワールドカップがあります。ぜひ良い成績を残し、わが国の女子プロスポーツとして確固たる存在にしてもらいたいし、女の子のあこがれの職業の一つになればと期待しています。

次に、環境についてですが、昨年11月1日に各商品のカーボンフットプリントを公表し、この日を「化粧品カーボンフットプリントの日」に登録いたしました。さらに、原料の一部を自社栽培の植物で抽出した化粧品を提供したり、コスメロスに向き合うため、品質に問題のない店頭入替商品をエシカル商品として当社の直営店でお買い求めいただく仕組みをつくったりするなど、環境に配慮した商品づくりにむけ、努力を重ねています。

一つの化粧品会社として、従業員の勤務を通じ、女子プロサッカーチームの応援を通じ、CO2排出削減とその公表を通じ、世の中にどれだけ貢献できるか、そのために自分の仕事を限定せず、出来る限りの努力をしていきたいと思えます。

（かたおか まさかず、ちふれホールディングス株式会社代表取締役社長、
昭和44年理学部卒業）

[目次に戻る](#)

随想

持続可能性について考える

名誉教授 塩路 昌宏



最近、会議に出席して“持続可能性（サステナビリティ）”について考えることが多い。持続可能性は、我々が目指すべき最重要コンセプトではあるものの、様々な課題が輻輳する議論の中では時として忘れられていると思える。

私は、機械工学科での卒業研究で水素エンジンを選び、それ以来、主に高効率クリーンエンジンの研究に携わってきた。定年退職後も自動車排ガス規制・燃費基準やエネルギー政策の審議、水素関連プロジェクトの採択審査・評価、等の委員会に出席し、その際には対象とする案件について国内外の現状と将来の変化を総合した意見・判断が求められる。

エネルギー・環境問題について、我が国ではパリ協定（2018年）や菅首相（2020年当時）による国会所信表明以降、カーボンニュートラル・脱炭素の目標を掲げ、グリーン成長戦略、第6次エネルギー基本計画、グリーンイノベーション基金、改正省エネ法、GX経済移行債、等々、立て続けに対策が打ち出され、それに基づく施策が検討されている。その際も目指すべきは持続可能性であるが、ともすれば脱炭素を先行・重視するあまり様々な軋轢や格差が助長され、むしろ持続可能性に逆行する主張が評価・選択される場合もある。このようなグローバルな課題解決には国際間の協調が必須であるとともに、目的と手段を混同しないように心すべきであろう。

また、自動車を巡る状況もここ数年で大きく変化した。これまでエンジンシステム開発が自動車技術の発展を牽引してきたが、二次電池や電気電子・情報通信技術、等の飛躍的進歩に加え、自動運転や多様な交通システムへの対応、等の社会的ニーズが顕在化し、自動車の価値をも見直す大きな変革が要請されている。とくに脱炭素に関連してEVシフトの潮流が加速し、エンジン車を排除する動きもある。とは言え、各国特有のエネルギー事情や産業構造がある中、一律なエンジン車の規制・標準化は持続可能性に逆行することにもなり、今後とも慎重な議論と適切な対応が必要となる。

今、話題となっているChat GPTに“持続可能性とは？”と質問すると、「現代社会が経済成長や社会的発展を達成する際に、環境、社会、経済の3つの側面をバランスさせながら、長期的な持続可能な発展を達成することを指す。」という模範回答が返ってきた。漠然とした問い掛けに、人類あるいは人間社会の持続可能性を答えたものであるが、実際の議論では、何の持続可能性を、どこまでの範囲で、どのような視点から考えるかが重要であり、場合によっては年限に制約されることも多い。まずは議論対象の境界を定めて、考えるべき要素と環境を把握することが肝要であり、多様性と共存を尊重しつつ互いに主張し、様々な意見が融合・調和する中で進歩が生まれるのであろう。

本稿の執筆が、改めて持続可能性を考える契機となった。私の参画する委員会での議論においても、その視点を忘れずに臨みたい。

（しおじ まさひろ、平成29年退職、元大学院エネルギー科学研究科教授、
専門は燃焼工学、内燃機関、動力システム、熱流体工学）

[目次に戻る ↗](#)

洛書

最終講義のタイトルを考える

栗野 皓光



京大に着任して2年ちょっと、35歳の私が書くと「生意気だ!」とか「そんなもの気にせずに目の前の研究に打ち込め!」等とお叱りを受けそうだが、大学に着任して間もない頃からふとした時に考えるテーマである。「自分の研究人生を端的に表現する言葉」を考える、ちょっとした空き時間に自分の研究テーマを見つめ直す良い思考問題だと思う。

思えば様々な場面でタイトルを考えさせられるものである。私に限って言えば、日々の研究活動を通して執筆する論文や研究発表のタイトルは勿論のこと、学生さんの学位論文のタイトルや、科研費等の申請書のタイトル、はたまたこの文章のタイトル等、少し考えただけでも沢山のものが思い当たる。少し視点を広げてみれば一年の抱負や、企業理念等もタイトルの一種と言えるのでは無いだろうか。

では、タイトルに求められる要素は何だろうか? まず思い浮かぶのは、講演や文章の内容、企業であれば活動の実態を、簡潔で分かりやすく記述したものであるべきだろう。また、インパクトがあり、一見ただけで人の興味を引き付けられるものであることが望ましい。更に欲を言えば、普遍的で、時間が経っても色褪せない問いかけを含んでいるとなお良いのでは無いかな。

私はタイトルを考えることは、自身の活動や研究計画に1本の軸を通すことだと考えている。スパッと端的に表現されたタイトルが軸となり、軸を支えるように日々の研究が芽吹いていく。このように考えると、最終講義のタイトルを考えることは、これからの研究者人生をどの様に歩んでいくか考えることと全く同じであろう。

京大を出て8年、民間企業等を経て再び母校に戻ってきた。改めて自身の研究ポートフォリオを見返してみると、集積回路工学を中心に、知能ロボティクスや、認知心理学へと興味が広がってきた。最近では、「AIが模倣できないような人に特有の知的活動」は何だろうかと考え、仏教学にも興味は広がっている。既に取っ散らかってきており、「軸」を見出せるか、今から不安ではある。

「ちはやぶる 神代もきかず 龍田川 からくれなゐに 水くるとは」在原業平が紅葉の美しさを詠んだ歌である。“ちはやぶる”という枕詞の意味には諸説あるらしいが、某かるた漫画には、独楽の回転に例えた説明が紹介されていた。“ちはやぶる(千速振る)”は高速回転する独楽の微小な振動のことで、まるで静止しているように見えながら、周囲に偏りなく力が集中している様子を表すらしい。高速回転する独楽のように、安定した軸を持ちつつ、それでいて周囲に風が靡くような、そんなタイトルで最終講義を締めくくれるように、日々の研究に邁進していきたい。

(あわの ひろみつ、大学院情報学研究科准教授、
専門は集積回路工学+知能ロボティクス+α)

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、嶋本 讓 名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。
以下に同氏の略歴、業績等を紹介いたします。

嶋本 讓 名誉教授

嶋本讓先生は、令和5年2月8日逝去されました。享年91。

先生は、昭和29年3月京都大学工学部機械工学科を卒業、同大学大学院工学研究科修士課程機械工学専攻を経て昭和34年3月に博士課程を修了、京都大学博士(工学)の学位を授与されました。同年4月に京都大学工学部講師に採用され、昭和35年助教授に昇任されました。その後、昭和40年11月に岡山大学工学部教授に昇任され(後に岡山大学名誉教授の称号を授与)、昭和55年9月に京都大学工学部教授に配置換えとなり、工学部機械工学科熱力学講座を担当されました。その後、平成7年3月に停年により退職され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。



本学退官後は、同年4月から滋賀県立大学工学部教授を務められ、機械システム工学科のエネルギーと動力研究分野を担当されました。その後、平成14年3月に退職され、滋賀県立大学名誉教授の称号を受けられました。

研究面では、数値流体力学を内燃機関の熱・流動現象解明に応用する研究を進められ、吸気・排気管系内の一次元ガス流動を数値解析し、機関性能の予測手法を開発されました。さらに、シリンダ・燃焼室等、複雑形状領域における流動現象を三次元的に数値解析する手法を開発され、ガス流動、燃料噴霧挙動、混合気形成過程を解明し、環境への適合に資する多くの成果を挙げられました。

先生は数値流体力学の手法を応用した研究で数多くの学術論文を発表され、SAE Colwell賞(昭和43年)、日本機械学会論文賞(昭和54年)、自動車技術会学術貢献賞(平成7年)、日本機械学会関西支部賞(功績賞、平成8年)、同学会エンジンシステム部門功績賞(平成19年)を授賞されるなど、高い評価を受けられました。日本機械学会、自動車技術会、日本船用機関学会、日本ガスタービン学会等に所属され、日本機械学会では評議員、関西支部長を、自動車技術会では評議員、ディーゼル・ガソリン機関部門委員会委員、関西支部理事を歴任するなど、学会の発展に貢献されました。さらには国際交流にも貢献され、「第2回内燃機関の燃焼モデリングと計測の国際会議」(平成2年)の組織委員長を務められました。

先生は、永年にわたって学生の教育と研究者の指導にあたられ、優れた研究業績を挙げるとともに、多くの人材を育成されて、内燃機関に関わる産業の進歩・発展に著しい貢献をされました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る](#)